

# 寄付 活動

## 日本財団 寄付事業活動報告書 2020

---

チャリティー自販機 | TOOTH FAIRY | 子ども第三の居場所 | 難病児支援 | 夢の奨学金  
災害復興支援 | 新型コロナウイルス緊急支援 | LOVE POCKET FUND | コラボレーション



2020年度も  
たくさんの  
ありがとうが  
生まれました。





日本財団会長・笹川陽平インタビュー

笹川陽平

# 「助け合い」の気持ち、 その受け皿を目指して。

2020年度はコロナ禍と共に幕を明けました。多くの方が不安を感じながら過ごす日々。そんな中だからこそ、人々のつながりを再確認できたようにも思います。日本財団にも新型コロナウイルス感染症対策支援をはじめ、多くの「助け合い」の気持ちが届きました。日本財団会長・笹川陽平とこの1年を振り返ります。

## — 2020年度は新型コロナウイルス感染症が猛威を奮った年でした。

多くのコロナ支援の寄付が日本財団にも集まりました。寄付と言えばこれまでは年配者が多い傾向にありましたが、今回多くの若者が寄付してくださったことは、とても特徴的で喜ばしいことでした。

欧米に比べて日本人は寄付への意識が低いと言わ

れますが、それは誤りです。政府や自治体による「公助」だけでなく、日本人のDNAには助け合いの精神である「共助」や自らが努力する「自助」が根づいているのではないかと思います。

問題があったとすれば、それは寄付をいただく側が寄付者に対して御礼はもとより、説明と透明性を果たす責任が不十分だったのではないのでしょうか。日本財団はこの点を重視して、間接経費を一切いただかず、寄付をその

ままご希望の支援先へ届けています。2020年度は47億円を超える寄付をいただきました。大変ありがたいことだと思っています。

### — 世界的なパンデミックにより、企業の社会責任もより強く問われるようになったと感じます。

私は40年前からCSR活動の普及に努めていますが、なかなかひと筋縄にはいきません。SDGsのバッチをつけても、名ばかりで具体的にはほとんどなにもやっていない企業が多いですね。

どうすれば変わるのか。私はCSR部の下にマーケ

ティング部門を設置することだと思っています。そうすればマーケティング活動そのものの中にCSRの概念を入れることができる。マーケティングとCSRが一体化した良い仕事ができるようになります。

日本の上場企業は、株主への配当が最優先。CSRよりもまず株主に還元せよという論調が強い。しかし、時代は変化しています。欧米では環境問題や人権問題に取り組む企業に投資家が魅力を感じるようになっていきます。

日本財団では障害者雇用を推進する世界規模の経営者ネットワーク「The Valuable 500」を支援しています。これからの時代、社会責任の感覚のない企業は投資家の対象とはなりにくくなっていくでしょう。

## みんながみんなを支える社会を目指して。

これから期待したいのは創業者であり若い企業家です。彼らの中には社会貢献への意識が強い方が増えていくように感じます。

### — アフターコロナ時代の日本に求められることは？

世間ではよくアフターコロナと言いますが、日本は古来より世界の災害大国です。人生、常に緊張感を持って生きなければなりません。

今もこれからも、日本人として私たちが意識すべきは、やはり「共助」と「自助」なのではないでしょうか。高齢や難病で生活に苦しんでいる人がいる。それを行政に任

せきりにするのではなく、「共助」と「自助」によって日本をもっと強くしていく。そしてその「共助」の受け皿の一つが日本財団であってほしいです。

また一方で、行政ができないことをやるのが日本財団の役割だとも思っています。すべての人に公正である必要がある行政に対して、日本財団は優先度が高い課題に対して、いち早く選択と集中をして、取り組みことができます。

寄付で大切なのは金額ではなく利他の心です。そして利他の心というのは昔から日本にあったもの。人は1人で生きているわけでもありません。電車に乗るのだって、食事だって、みんな誰かの力を借りています。日本財団が皆さんの利他の心の受け皿になればと思います。



ファンドレイジングチーム・中村がインタビューを担当



新型コロナウイルス対策支援として、日本財団では医療従事者の方に感染防護具を配布



日本財団は新型コロナウイルス感染症対策支援として、全国の医療施設へ支援を実施



# 数字で見る2020年度の寄付

## チャリティー自販機



2008年から始めた日本財団チャリティー自販機が2020年度は新たに486台設置されました。全国で8,110台設置されています。1本10円のご寄付は、子どもや災害復興支援、新型コロナウイルス対策支援等に活用しました。

## TOOTH FAIRY



2009年6月から始めたTOOTH FAIRYプロジェクト。2020年度はコロナ禍で、歯科医師の先生方も大変な状況の中、1,553件の金属の提供をいただきました。提供いただいた金属はリサイクルし、難病の子ども支援・ミャンマー学校建設等に活用しました。

## 子ども第三の居場所



様々な困難を抱える子どもたちの居場所の支援として、「子ども第三の居場所」は2016年からスタートし、2020年度末で全国39拠点となりました。今後は、全国で500拠点到ることを目指しています。

## 難病の子どもとその家族の支援



難病や重い障害を抱える子どもたちの支援拠点を全国に30ヶ所開設することを目指して事業を実施してきました。2020年度末で25ヶ所開設、そして残り5ヶ所も決定し、2021年度開設予定です。

# 数字で見る2020年度の寄付

## 夢の奨学金



社会的養護のもとで暮らした若者たちの進学支援として2016年より奨学金事業を実施しています。1～6期生までの85名を支援し、奨学生同士のネットワークが広がっています。

## 災害復興支援



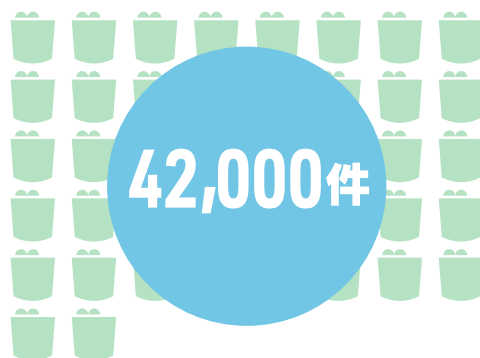
令和2年7月豪雨の復興支援を実施。現地で活動する71団体への支援と合わせて、日本財団は熊本県球磨村からの要請を受けて、重機作業を中心とするボランティアを派遣しました。

## 新型コロナウイルス緊急支援



新型コロナウイルスの感染拡大を受け、医療従事者等の支援に活用するため、2020年4月に寄付の募集を開始しました。開始直後から沢山のご寄付をいただき、1年で2,741,212,960円が集まりました。

## LOVE POCKET FUND



2020年4月27日、新しい地図の3人と協働で基金を立ち上げ、42,000件を超える沢山のご寄付をいただきました。いただいたご寄付は、医療従事者や子ども食堂等への支援に活用しました。

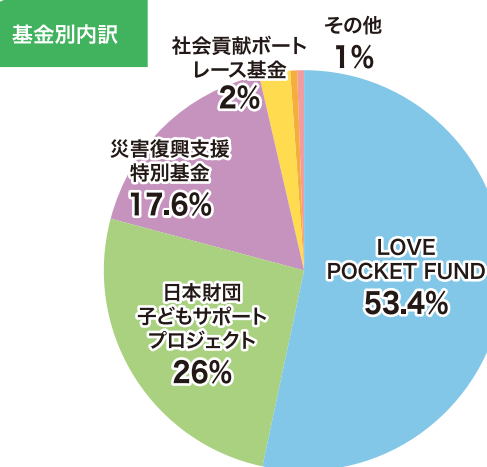
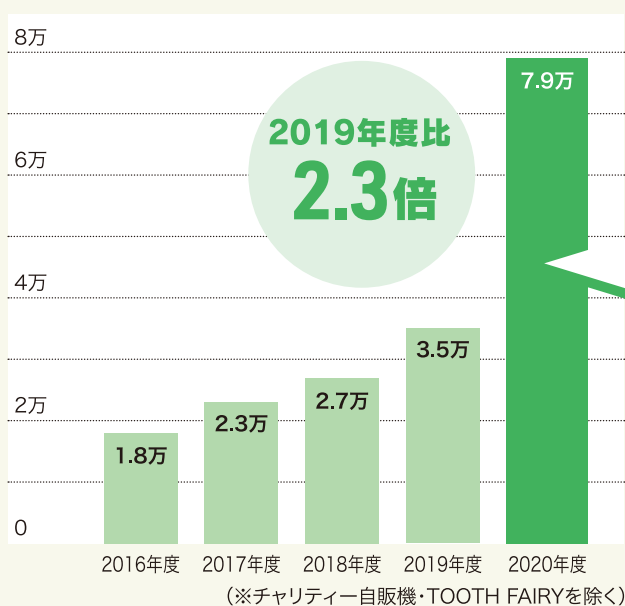


# 2020年度の寄付のチカラ

2020年度は新型コロナウイルス対策の支援、令和2年7月豪雨の支援を中心に、過去5年で最も多い寄付件数が集まりました。みなさまからのたくさんのあたたかなお気持ちのこもったご寄付は、100%現場にお届けし、被災地や医療従事者、子どもたちへの大きな力となりました。

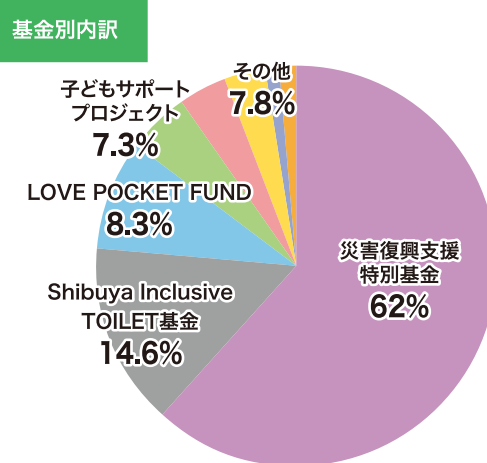
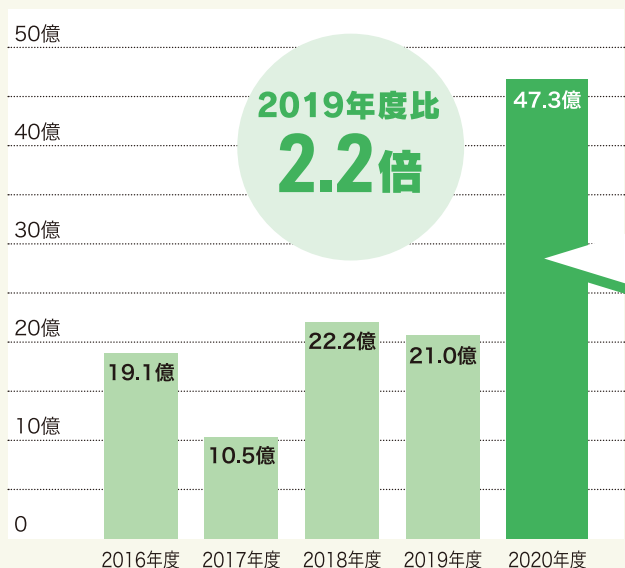
## 寄付件数

### 年次推移



## 寄付金額

### 年次推移



# チャリティー自販機



\ Thank you! /

## 事業担当者よりみなさまへ

日本財団チャリティー自販機はお陰様で8,000台突破をしてきました。2020年度はコロナ禍でも安定したご寄付をいただき誠にありがとうございます。これからも気軽に寄付できるチャリティー自販機で社会貢献の輪を広げていきたいと思っております。



ドネーション事業部 ファンドレイジングチーム(前田)



## チャリティー自販機のお申込みから設置までの流れ



お気軽にお電話ください。  
設置のご相談やご希望のメーカーなどをお聞きします。  
TEL:0120-892-139



飲料メーカーからお客様へ  
ご連絡をさせていただき、  
現地に伺います。



飲料メーカーと契約成立  
※飲料メーカーと条件が合わない  
場合、日本財団より別の  
飲料メーカーをご紹介します。



設置完了!  
1本につき10円の  
社会貢献になります。



### 既設の自動販売機も「チャリティー自販機」に替えることができます。

いまある自動販売機のまま、「チャリティー自販機」に切り替えることが可能です。また、他社の自動販売機に変更し、「チャリティー自販機」にすることもできます。

### お取り扱い可能な飲料メーカー

全ての飲料メーカーでお取り扱い可能ですので、ご希望のメーカーがありましたらお聞かせください。

### お取り扱い可能な飲料の種類

缶、ペットボトル、カップ、紙パックなど、設置場所に合わせた、多彩な自動販売機をご用意しております。

寄付者  
一覧

2020年4月～2021年3月にご寄付いただいたみなさまを紹介

[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don\\_act\\_20200615\\_02.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don_act_20200615_02.pdf)



## チャリティー自販機設置者の声



大陽工業株式会社／東京都  
代表取締役社長 酒井 陽太様

### 【導入経緯】

常々、日本財団さんは政府がなかなかやれない事を国に代わってやってくれることに素晴らしい組織とっておりました。チャリティー自販機の寄付システムを伺い、これとても良いアイデアだと思い、グループ会社にも呼び掛け計20台の自販機を設置させて頂きました。

### 【導入後の反応】

東日本大震災時に何かしなければという気持ちで声を掛けて募金を呼びかけ寄付をしました。事業所としては初めての募金でした。それから9年後、日本財団さんからお話をいただき、日常生活の中で困っている人へ何かのお役に立てるという事、そして、災害募金だけでなく、色々な支援に充てることが出来ることを知りました。当社の経営理念には「人の為にお役に立つ事の喜びを感じ、そこから自己の確立と成長を目指す。」とあります。これからもチャリティー自販機の設置拡大のお手伝いができればと思っております。

### 【導入経緯】

2019年4月から36台設置しました。日本財団チャリティー自販機協力パートナーである飲料メーカーからチャリティー自販機の使用を教えていただき、社会貢献に繋がる良い取組みであると思い、「日本財団チャリティー自販機」と明記し、導入いたしました。

### 【導入後の反応】

チャリティー自販機は、公社の管理している賃貸住宅に住まわれている方や近所にお住まいの方たちが、何気ない形で寄付を行える仕組みです。日常生活では寄付として社会へ貢献し、災害時は災害対応自動販売機として地域の方々へ貢献することで、当社が経営理念に掲げている「暮らしに笑顔を！」を実践していくための、価値ある事業の一つとなっています。今後も社会貢献の視点で日本財団チャリティー自販機がさらに大きな社会貢献の輪へと広がりますよう応援・継続してまいります。



群馬県住宅供給公社様



株式会社サンパワー／神奈川県  
海外営業部リーダー  
ホセイン カジ モザヘル様

### 【導入経緯】

当社では、日本財団チャリティー自販機を2018年3月から合計8台設置しました。ソーシャルビジネス(社会問題のビジネス的解決)という企業理念のもと、更に地域へ貢献ができないかと考え、すでに別の自販機を設置しておりましたが、日本財団チャリティー自販機への参加を決めました。

### 【導入後の反応】

導入当初は現場の従業員からどういった反応が出るか心配もありました。しかし当社は平素より孤児院や地域の病院などに寄付や物資の支援などを続けており、理念の浸透が土壌にできていましたので、何も問題はありませんでした。少額ではありますが、無意識のうちに寄付という尊い行いが出来るこの自販機を通じて、全従業員が「応援」に参加できている事に誇りを感じます。今後も当社はソーシャルビジネスを軸に、各従業員が自然に社会貢献出来るこの日本財団の自販機を継続し、様々な形で「人のお役に立つ」という喜びを全従業員とともに感じていきたいと思っております。

### 【導入経緯】

2012年から夢の貯金箱を設置しました。現在9台になります。当時社会貢献を何か出来ないか考えていた時、日本財団の取り組み「夢の貯金箱」、現在のチャリティー自販機を知り参加させて頂きました。

### 【導入後の反応】

自販機設置で1本につき10円の社会貢献に関わらせて頂き、その寄付金が全て支援活動に使われることで、少しでも社会に役立させて頂いていると感じております。今後も弊社は社会貢献ツールとしてチャリティー自販機を継続して参ります。



株式会社倉本産業／東京都  
代表取締役社長 倉本 朝晴様



## チャリティー自販機推進担当者の紹介



**町田 和久**

Machida Kazuhisa

【出身地】群馬県

【趣味】スポーツ観戦、家庭菜園、日本史

【特技】蕎麦打ち、草野球、ゴルフ

日本財団チャリティー自販機へのお力添えありがとうございます。自動販売機で飲料を購入するだけでできる社会貢献活動。間接経費をかけずに100%支援活動に使用させていただきます。皆様のところへ、ご訪問させていただく際はよろしく願いいたします。引き続き、寄付文化醸成事業活動にご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

日本財団チャリティー自販機パートナーの皆様、いつもご支援いただきありがとうございます。コロナ禍が続き、人と人との交流が少なくなっているかと思えます。皆様が、日常の中で財団自販機ご利用いただくことで、社会貢献活動に活かされていきます。今後とも参加型社会貢献活動として、ご支援のほどお願いいたします。



**佐藤 優至**

Sato Yuji

【出身地】神奈川県

【趣味】サッカー、映画鑑賞

【特技】ヘディング

日頃より大変お世話になっております。日本財団チャリティー自販機はお陰様で8,000台突破をしてきました。今年はコロナ禍のなかでも安定したご寄付をいただき誠にありがとうございます。これからも気軽に寄付できるチャリティー自販機で社会貢献の輪を広げていきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。



**前田 勝也**

Maeda Katsuya

【出身地】宮崎県

【趣味】単車、昭和の物、一眼レフ

【特技】加齢談議

日頃より日本財団チャリティー自販機へのご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。みなさまの社会貢献への思いを各支援事業に大切にさせていただいております。これからも社会貢献活動、日本財団チャリティー自販機を引き続き宜しくお願いいたします。



**矢野 浩**

Yano Hiroshi

【出身地】徳島県

【趣味】ボートレース本場観戦

【特技】パスワードを忘れること



**鈴木 美夕紀**

Suzuki Miyuki

【出身地】東京都

【趣味】ガーデニング、洋裁、猫と戯れる事

【特技】料理(和洋中、エスニック)、飾り巻き寿司インストラクター

日頃よりチャリティー自販機でお世話になっているパートナーの皆様、心より感謝申し上げます。「1本につき10円」として皆様からのご寄付は100%社会貢献活動支援に活用させていただきます。明るい未来の為に、子供たちに笑顔を届ける為に、ご支援ご協力をお願いいたします。新しいパートナー様にもお会い出来る日を楽しみにしています。

# TOOTH FAIRY



\ Thank you! /

## 事業担当者よりみなさまへ

新型コロナウイルスおよび政変の影響でこれまで以上に慎重な事業運営をしました。現地のパートナーであるれんげ国際ボランティア会さんと連絡を取り合い、現場の状況確認を行ったうえで、人道支援・教育支援をイラワジ地域の村民の方々のために行いました。



国際事業部 国際協力チーム(勝俣)

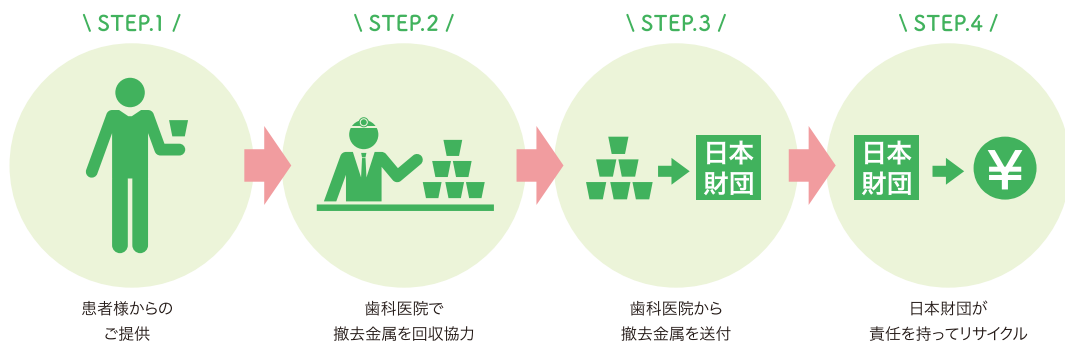
## 事業の説明

### 金歯や銀歯の提供で社会貢献

TOOTH FAIRYは、活動に共感いただいた歯科医院と患者様の協力により進めております。歯科治療等で不要となった金歯・銀歯などの金属をご提供いただき、リサイクルをし、その資金を国内の難病の子どもとその家族の支援、ミャンマーの学校建設などの支援に活用しています。本プロジェクトは、これまでに累計19億円以上、全国の参加医院は6,800医院にのぼります。



#### TOOTH FAIRYの仕組み



#### 支援プロジェクト



#### スクールプロジェクト

ミャンマー等途上国における学校建設支援(国外)



#### チャレンジキッズプロジェクト

難病の子どもとその家族の支援(国内)

### TOOTH FAIRY プロジェクトに寄せて

「TOOTH FAIRYプロジェクト」は、不要な歯科撤去金属を患者さんのご理解の下で歯科医療機関が提供し、得られた資金で社会貢献を行う活動です。日本歯科医師会が協力し、日本財団が主体となる本活動は、今年で13年目を迎え、これまでに参加歯科医療機関数は6,800超、金属リサイクル金額の総額は19.5億円に達する大規模プロジェクトに発展しました。

歯科医師だからできる本活動により、難病や障がいを抱える子ども達とご家族への支援事業や、ミャンマーでの学校建設事業が展開されています。更に現地での歯科医師による歯みがき指導などのボランティア活動も積極的に行われています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症で、事業変更を余儀なくされましたが、オンラインの活用などで精一杯事業を展開しました。支援活動は継続が重要であり、更に多くの歯科医療機関が参画し、更なる社会貢献に繋がることを心から祈念いたします。



公益社団法人 日本歯科医師会  
会長 堀 憲郎氏



## 2020年度の成果

累計金属リサイクル金額

2019年度 1,779,292,566円

1.7  
億円

2020年度 1,950,804,048円

累計参加医院数

2019年度 6,806医院

47  
医院

2020年度 6,853医院

## 2020年度のTOPIC チャレンジキッズプロジェクト(難病の子どもとその家族の支援)

2020年度は12プロジェクトを実施しました。新型コロナウイルス対策のため、オンライン等に切り替えるなど、感染予防を徹底し、実施しました。



### 特定非営利活動法人 日本クリニクラウン協会

「クリニクラウン」とは、病院を意味する「クリニック」と道化師をさす「クラウン」を合わせた造語で、入院生活を送る子どもの病室を定期的に訪問し、遊びやコミュニケーションを通して、子どもたちの成長のサポートを行いました。

新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、2020年度はオンラインで活動を行いました。



### 認定NPO法人 芸術と遊び創造協会 「オンラインスマイルデー」

2020年度は新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、オンラインで10月に2日間にわたり開催。首都圏をはじめ、遠くは富山、新潟、愛知、大阪など全国から57の家族が参加しました。木育ワークショップやアロママッサージといった、スマイルデー恒例のプログラムも画面を通して実施。

さらに、日本歯科医師会の小玉剛常務理事に参加いただき歯磨き指導や、大道芸人のミニステージなど、新しい試みを加えた盛りだくさんの2日間となりました。

2009年度から開始したTOOTH FAIRYの資金で難病の子どもとその家族が安心して過ごせる支援施設が、全国で8ヶ所建設されました。

北海道

宮城県

栃木県

山梨県

奈良県

兵庫県

熊本県

沖縄県

## 2020年度のTOPIC スクールプロジェクト(ミャンマー学校建設)

2020年度は、ミャンマー連邦共和国イラワジ地域に3校の学校を建設しました。年度当初予定していた教員研修事業は新型コロナウイルス感染拡大のため、一部中止となりました。その代わりに、既建設学校の図書館の建設や村の開発に活用させていただく予定です。



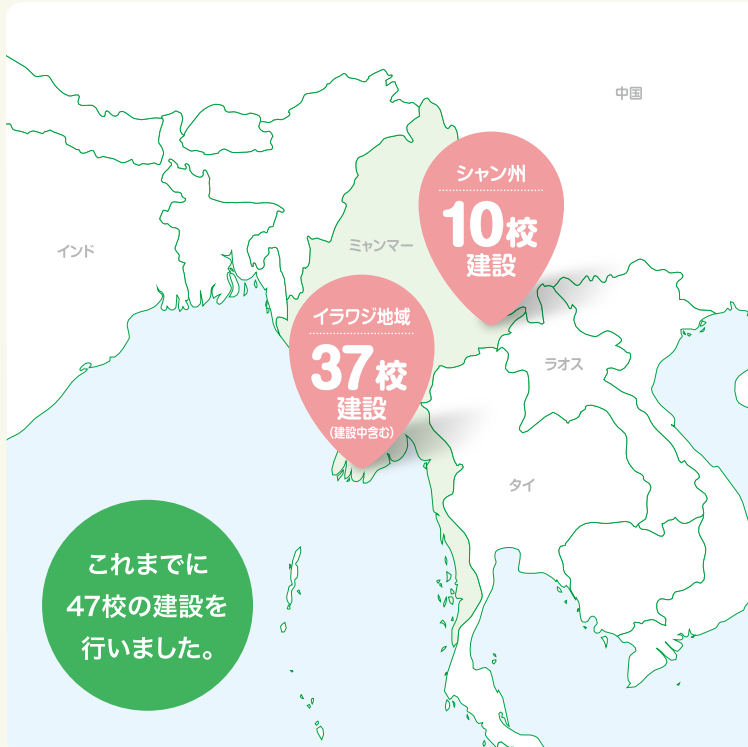
タンボーズ高校(ミャウミャ・タウンシップ)



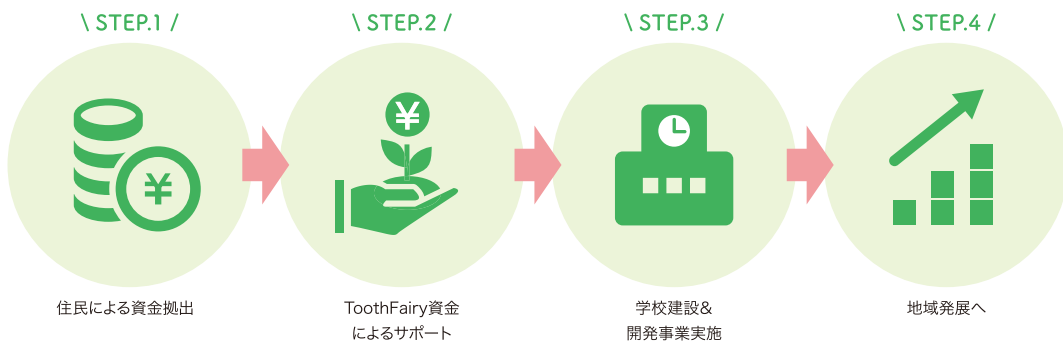
シュエボーイェジョーBranch中学校  
(エイメ・タウンシップ)



アナウズBranch高校(ガンジーダウ・タウンシップ)



### 支援の仕組み



開発途上国の貧困解決には基礎教育支援が重要ですが、学校建設後に継続的に教育活動が行われ、地域が発展するために、地域開発のための収益事業を立ち上げることが不可欠です。TOOTH FAIRYでは、校舎の建設費の1/4を各村に自己負担してもらうことや、収益事業実施のサポートを行うことで、自立運営の後押しを行います。

## 寄付者からの声



渡部圭一 歯科 渡部 圭一先生とスタッフのみなさま

## 歯科医師にできる寄付の力

私たち渡部圭一歯科は平成19年2月に福島県会津若松市に開業しました。開業直後からTOOTH FAIRYに参加させていただき毎年寄付を続けています。

歯科医師として日々の診療で助けられる人数は一日せいぜい30人前後です。

TOOTH FAIRYに参加し寄付の力を借りれば、世界のどこかで笑顔になる人を数百人数万人にすることも可能です。今後も歯科医師にできる寄付の力を通じて社会貢献ができれば幸いです。

## 子どもたちが喜ぶ 寄付を続けていきたい

TOOTH FAIRY 参加のきっかけは、2009年にこの事業についての新聞記事を読んだことでした。ちょうど、その前年に開院しており、少しずつ社会貢献をしていけたらいいなと思っていた私達の気持ちを形に変えてくれる素敵なプロジェクトだなと思い参加しました。2010年から毎年、年間活動報告書を送って頂いておりますが、一年間の活動が詳しく記されているので読むことが楽しみです。そして、私たちの診療室内でのほんの少しの気持ちと活動が、こんなにもたくさん子ども達に喜ばれる学校や施設の建設、イベント開催の一助になっているのかと思うと、いつも嬉しい気持ちで一杯になります。

私達の寄付は、わずかではありますが、これからも毎年参加していきたいと思っておりますので、この素晴らしい活動をぜひ継続して下さい。

世界中の子ども達が、一人でも多く笑顔になりますように！



こぐえ歯科クリニック スタッフのみなさま



## 支援現場からの声

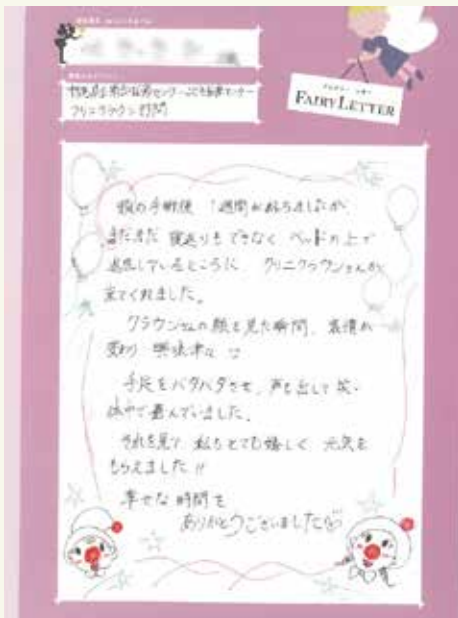


認定NPO法人れんげ国際ボランティア会 平野喜幸さん

長い間、継続的に支援いただいたことを感謝しています。おかげで、ミャンマーでの取り組みも学校を建設するだけの一過性のものではなく、地域住民が自分たちの力で村の教育環境を発展させるムーブメントへと変わりつつあります。

自分たちの努力で村の教育環境を向上させることができ、自分たちの背中が次世代の子供たちに生き方を伝えるメッセージになるということを、TOOTH FAIRY事業を通じて伝えていきたいと思います。

## これまでの支援活動



イベント参加者の声



歯科金属のリサイクルの様子



ご寄付者からのお手紙



リサイクルの様子

寄付者  
一覧

2020年4月～2021年3月にご寄付いただいたみなさまを紹介

[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don\\_act\\_20200615\\_03.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don_act_20200615_03.pdf)



# 子ども第三の居場所



\ Thank you! /

## 事業担当者よりみなさまへ

子どもたちはコロナ禍の一斉休校という誰もが経験したことのない不安と戸惑いの中で新学期をむかえ、「子ども第三の居場所」は子どもたちの日常と生活リズムを取り戻すために必要不可欠な場所となりました。多くの方のご支援に支えられ、感染対策をとったうえで、子どもたちに様々な体験活動を提供しています。



経営企画広報部 子どもサポートチーム(濱畑・渡邊)

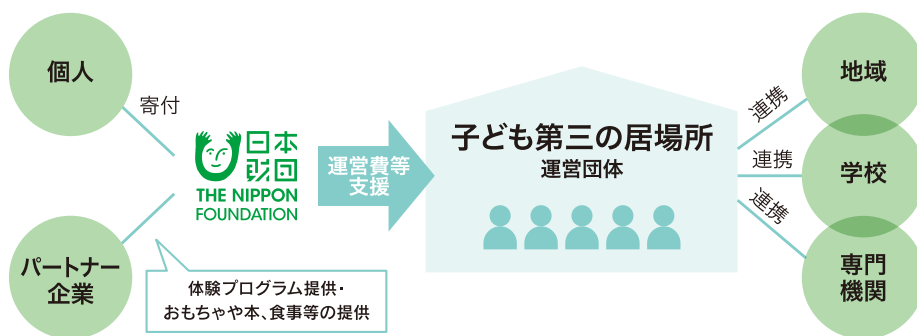
## 事業の説明

### 子どもたちが安心して過ごせる居場所を

家庭の抱える困難が複雑・深刻化し、地域のつながりも希薄になる中で、安心して過ごせる居場所がなく、孤立してしまう子どもも少なくありません。「子ども第三の居場所」では、ひとり親世帯や共働き世帯の孤立や孤食、発達の特性による学習や生活上の困難、経済的理由による機会の剥奪など、様々な困難に直面している子どもたちを対象に放課後の居場所を提供し、食事、学習習慣・生活習慣の定着、体験機会を提供しています。将来の自立に向けて生き抜く力を育み、同時に、学校や地域、専門機関と連携し、「誰一人取り残されない地域子育てコミュニティ」のハブとしての機能を担う「子ども第三の居場所」を全国500拠点に拡げることが日本財団は目指しています。



#### 子ども第三の居場所の仕組み



パートナー企業

# SONY

ソニーグループ株式会社様

IoTブロック「MESH™」を使用したプログラミングワークショップの実施に加え、マスクやご寄付を頂戴しました。

# CTC

Challenging Tomorrow's Changes

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社様

子どもたちが毎日食べる夕食のために、農家のお米3.6トン、お茶18キログラムのご寄付をいただきました。

## 2020年度の成果

全国累計 **39** 拠点

2019年度 累計 **30** 拠点

2020年度 累計 **39** 拠点

今後全国に**500**拠点設置を目標としています

詳しくはこちら



子ども  
第三の  
居場所



## 2020年度のTOPIC

家庭の事情などで家族旅行やお出かけをする機会が少ない子どもたちもいます。「子ども第三の居場所」では、学習支援・生活支援に加えて旅行やイベントへの体験の機会の提供をしています。



### 自炊体験（広島県／尾道拠点）

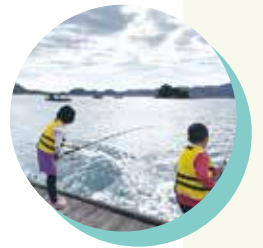
自炊体験として、お弁当をつくりました。おにぎりやウインナー、玉子焼きを自分のお弁当箱に詰めながら「お弁当をつくるのって、お母さん、こんなに大変だったんだ」と、改めて感謝の気持ちがわいてきます。

自炊体験は自立への小さな一歩、少しずつ身の回りのことができるようになってきています。皆様からの寄付金でさまざまな体験活動を行っています。



### 自然体験（徳島県／鳴戸拠点）

2020年前半は様々な活動を自粛せざるを得ませんでした。コロナの感染拡大が少し落ち着いてきた秋に遠足を実施し、畑の収穫体験、焼き芋、海釣りを行いました。初めて釣りをする児童もおり、餌をつけるのを怖がったり、釣り竿のたらし方を工夫してみたりと、それぞれに楽しんでいました。海に出る前は船に乗るのも揺れて大騒ぎでしたが、帰りは慣れたもの。少し頼もしく成長した1日でした。



## 寄付者からの声

日本の未来を支えていく子ども達に向けて何かしたいという思いから、「日本財団子どもサポートプロジェクト」の取り組みや理念に賛同し、寄付させていただくことにしました。自分にできることは小さな事かもしれませんが、しっかり本業の野球で結果を残し、こういった取り組みを発信していくとともに、チャリティイベントも継続していきながら、長いスパンで寄付を続けていけるようにしたいです。



西勇輝様(阪神タイガース)

## 支援現場からの声



尾道市社会福祉協議会(広島県/因島拠点) マネージャー 橘忠和さん

本事業に沢山のご支援をいただきありがとうございます。因島拠点では、友達やスタッフと放課後の時間を共有する中で、子どもの生活のリズムを整え、学びへの意欲を高めるよう毎日取り組んでいます。通っている子どもの中には、学校に上手く馴染めない子や勉強を苦手とする子もいますが、拠点内ではみんな仲が良いのが特徴です。学習習慣や生活習慣を身につけてもらい、集団生活ができるように働きかけをして、彼らが大人になった時に自立できるようサポートしています。野菜づくり、囲碁教室、親子キャンプ等、色々なプログラムで刺激を受けた子どもたちが、何か頑張れるものや楽しいと思えることを見つけられるよう、引き続き活動していきたいと思っています。

コロナ禍で、大人だけでなく子どもたちもまた、我慢をしなければならないことが続いていました。ジャングルジムやログテーブルは子どもたちが再び外で遊ぶきっかけをつくってくれたんです。

世の中はこんな状況ですが、子どもたちが元気よく、はつらつと遊ぶ姿を見ると、僕も元気を分けてもらえるんですね。

だから、拠点で子どもたちが楽しく遊んでいる声が地域に響けば、地域全体が明るくなるんじゃないかなと思うんです。



大村子供の家(長崎県/大村拠点) マネージャー 西川一平さん

寄付者  
一覧

2020年4月～2021年3月にご寄付いただいたみなさまを紹介

[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don\\_act\\_20200615\\_04.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don_act_20200615_04.pdf)



# 難病の子どもとその家族の支援



難病の子どものおもちゃセット  
**あそびのむし 贈呈**  
東京おもちゃ美術館 × THE HIPPOCAMPUS FOUNDATION

\ Thank you! /

## 事業担当者よりみなさまへ

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、主にオンラインで難病の子どもとその家族を対象とした遊びや学びのプログラムを実施しました。長らくステイホームで難病の子どもとその家族が社会から分断されるという課題がある中、皆様からのご寄付により、難病の子どもとその家族が再び社会とつながるきっかけを作ることができました。



公益事業部 国内事業開発チーム(高島・中嶋・富楽・榎村)



## 事業の説明

### 難病の子どもとその家族の支援

医療技術の進歩によって救える命が増える一方で、一命をとりとめたものの、重い障害が残ったり人工呼吸器など医療的ケアを必要としたり、難病を抱えて暮らす子どもが増えています。現在、難病の子どもは全国に25万人以上、医療的ケアが必要な子どもは2万人以上。また、難病の子どもの看護に24時間追われる家族は、社会から「孤立」を感じることも少なくありません。

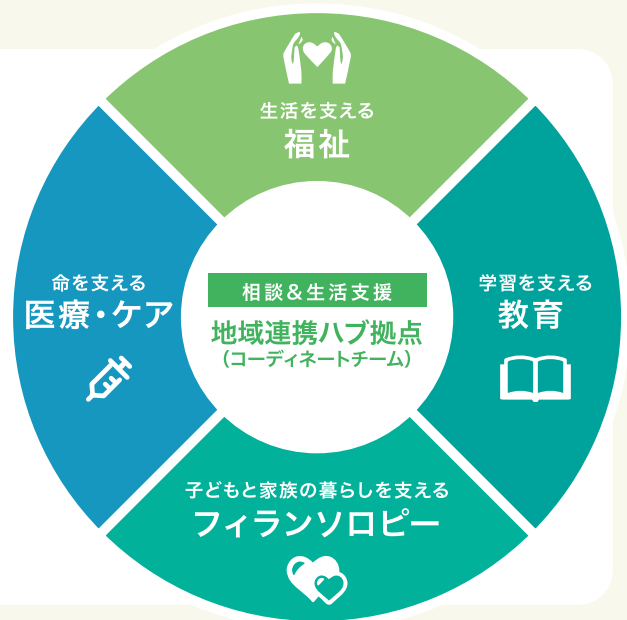
日本財団は、難病の子どもとその家族がいつでも安心して頼れるつながりができるよう、全国に支援施設の建設などを行っています。



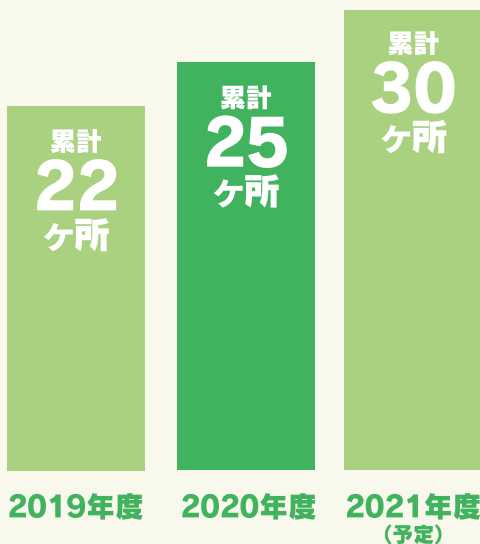
#### 支援の仕組み

### 領域を横断する取り組み

「医療・ケア」×「福祉」×「教育」×「フィランソロピー」  
難病の子どもとその家族の暮らし、学び、遊びを支えるために、「命を支える医療・ケア」「生活を支える福祉」「子どもの学びを保障する教育」「フィランソロピー」の領域を横断、孤立しない地域づくりを目指しています。



## 2020年度の成果

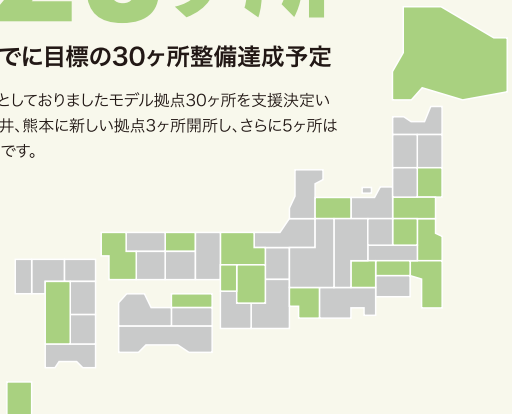


## 全国累計 25ヶ所

2021年度までに目標の30ヶ所整備達成予定

※2020年度は目標としておりましたモデル拠点30ヶ所を支援決定いたしました。鳥取、福井、熊本に新しい拠点3ヶ所開所し、さらに5ヶ所は2021年度開設予定です。

詳しくは  
こちら



## 2020年度のTOPIC



### 難病の子どもへ笑顔を届ける

感染症のリスクの不安があったり、常に重い呼吸器などの医療機器の準備が必要な難病の子どもと家族の外出機会は少ないため、本プロジェクトでは子ども病院に専門のトレーニングを受けたファシリテッドッグといわれる犬やクラウン(道化師)を派遣する事業、移動型のプラネタリウムが訪問する事業、劇団四季や宝塚歌劇団出身のプロのパフォーマーがミュージカルを届ける事業などを支援しました。

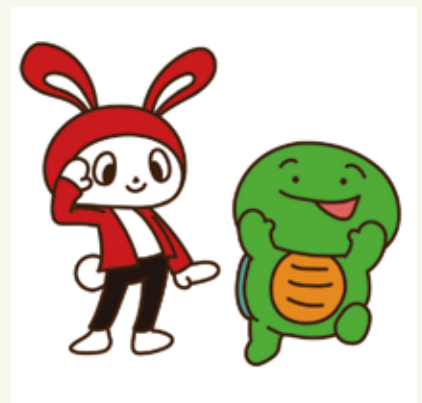


### 「あそびのむし」プロジェクト

2020年度は、東京おもちゃ美術館との共同事業「あそびのむし」プロジェクトを実施しました。難病の子どもや家族、「日本財団地域連携ハブ拠点」に常駐する看護師や保育士などの専門スタッフ、おもちゃのプロであるおもちゃコンサルタントなど、当事者と専門家の声を取り入れながら、難病の子どもと家族、お友達、そして支援者が一緒に遊べる世界中から取り寄せたおもちゃのセットボックスが完成し、全国約100ヶ所の施設・病院へ配布しました。

## 寄付者からの声

YouTubeを通じて僕たちで何かできないか考えた結果、日本の子どもたちの未来のために寄付することにしました。日本財団の難病児支援・第三の居場所に、計107万2,814円寄付しました。まいぜんシスターズから100万円、皆様のスーパーチャットから7万2,814円です。



まいぜんシスターズ様 (YouTuber)

## 支援現場からの声



東京おもちゃ美術館 副館長 石井今日子さん

難病を患っている以上、生命を守ることが何よりも優先されます。ただ、ちょっとした時間に遊びの楽しさも体験してもらいたいです。

ケアやりハビリだけに一生懸命になっているお母さんたちにも、もう少し力を抜いて、子どもたちと笑える時間を過ごしてもらいたい。“結果”ばかりを求めてしまうと子育てはがんじがらめになってしまいます。

でも、子どもにあまり結果を求めないでほしい。それは難病の子どもだけではなく、健常の子どもにも言えることかもしれませんね。

『がんばれ共和国』に参加するご家族は、本当にそれを楽しみにしてくれているんです。

キャンプだと同じ気持ちを共有できる家族が集まりますから、誰もが気兼ねなくリラックスできて、大切な仲間と過ごす時間になっているんだと思います。

2020年は新型コロナウイルスによる影響で、オンラインキャンプに形を変え、WEB上で参加者が交流できる場を設けました。毎年このキャンプを楽しみにしてくださっている方が多くて、改めて難病の子どもとその家族には“つながり”が大切なんだと実感しました。

私が望んでいるのは、とてもシンプルなことなんです。それは誰にとっても暮らしやすい社会が訪れること。難病や障害のある人たちが生きやすい社会というのは、すなわち健常者にとっても生きやすい社会じゃないですか。結果、みんなが生きやすいということ。そんな社会の実現を願っています。



難病のこども支援全国ネットワーク 主任 本田睦子さん

寄付者  
一覧

2020年4月～2021年3月にご寄付いただいたみなさまを紹介

[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don\\_act\\_20200615\\_04.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don_act_20200615_04.pdf)





# 夢の奨学金



\ Thank you! /

## 事業担当者よりみなさまへ

2020年度は、活動報告会と2回の交流会、選考面接等、一部対面も入れつつオンラインで行いました。また、コロナ禍でのアルバイト減少、オンライン授業の増加という状況を鑑み、生活費とオンライン環境整備のための追加給付を奨学生全員にいたしました。こうした臨時的対応ができたのも、ひとえに寄付者の皆様のおかげです。ありがとうございます。



公益事業部 国内事業開発チーム(桂・高橋)

## 事業の説明

### 社会的養護のもとで暮らした若者たちへの支援

事情があって実の家族と暮らせなかった、社会的養護のもとで暮らした若者たちは、原則として18歳を迎えると、児童養護施設や里親家庭など、それまで暮らしていた場所から出て行かなくてはなりません。またこのような若者の多くが住居費や生活費を捻出するために就労します。経済的な理由に加え、体力的・精神的な疲労から進学をあきらめたり、進学しても長く続かなかったりするケースが一般に比べて圧倒的に多いのが現状です。そのような若者たちを対象に、学費全額に加えて生活費や住居費もサポートし、勉強やサークル活動といった学生としての経験をできるだけ多く積んでもらうために、奨学金を創設しました。2020年度からは国の給付型の奨学金が充実してきたため、国の制度から漏れてしまう人を対象としています。



### 支援の仕組み

#### 経済的な支援



給付型

学部指定なし

#### 精神的な支援



中退者・既卒も可

## 2020年度の成果

2019年度  
奨学生 **75**名  
(1~5期生)

2020年度  
奨学生 (1~6期生)

**85**名

詳しくは  
こちら



## 2020年度のTOPIC



### 交流会・5期生認定証授与式の実施

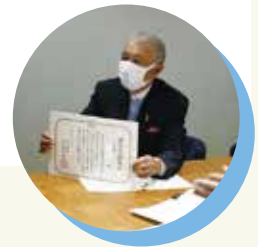
新型コロナウイルスの感染拡大を受けて延期されていた5期生の認定証授与式と2020年度第2回交流会が11月15日、日本財団ビルで行われました。オンラインも含めて約20人が各地から出席し、会場の5期生にとっては初めての対面も含む交流を楽しみました。「学会発表の成果を出していきたい」「大学でモンゴル語を勉強しています。留学にもチャレンジしたい」「フライトナースになるのが夢です」「農業高校の教師になりたいです」など、夢は多岐にわたります。



### 6期生認定証授与式の実施

6期生の認定証授与式が3月22日、行われました。日本財団ビルと各奨学生とを繋いだオンライン形式です。笹川会長は、本来ならば手渡しする予定だった認定証を一枚いちまい眺め、奨学生の名前を読み、ビデオカメラの前で示しました。

奨学生は「学業と生活の両立ができるように健康管理に気を付けながら、毎日元気に学校に通いたいと思います」「進学先は国際大学なので、交流会や留学の機会に、自分の知識やスキルをさらに高めていきたいです」など決意を語っていました。



## 寄付者からの声

本は皆さんが今後、自分の夢や目標に向かって勉強、そして行動をしていくうえで、ものすごく役に、大きな役に立ってくれるものです。夢や目標に向かって、読書をするだけで役に立ててもらえたら、僕としては非常に嬉しく思います。皆さんとも日本で会えることを楽しみにしています。もしその時に、どんな本を読んだのか、そして何が変わったのか、話を聞かせてもらえるとさらに嬉しいです。自分の夢をあきらめずにこの先も頑張って勉強してください。

※本田選手が代表取締役を務めるNowDo株式会社より100万円が寄付され図書カードを支援しました。



本田圭佑様 (NowDo株式会社 CEO)



## 支援現場からの声



藤本翔さん 20歳

それまでは、施設の子であることを理由に諦めていたことが多かったんです。夢の奨学金をもらえることになって、「今まで我慢してきたこと、心からやってみたいと思うことに挑戦していこう。」そういう気持ちがありました。経済的な余裕と精神的な余裕の両方が出てきたからだと思います。

夢は、施設をつくることです。その施設の特色は「海外との提携」「英語の公用化」の2つ。子どもたちには、自信を持って施設を出て行ってほしいんです。英語は彼らの自信になると考えました。英語が身についたら、就職をする時にもきっと役立ちます。

そして一番の大きな夢は「幸せな家庭を作ること」。そのためだけの貯金を、中学生の時に少しずつ始めたんです。このお金は他の何のためにも手を付けず、と決めて。

施設での生活で自分が決めた目標の一つは大学進学でした。高校生の時、施設出身者らとの交流に参加して、いろんな人がいて、それぞれに夢があると分かりました。その時に進学にあたって、奨学金は絶対に必要だと思ったんです。大学に入る前も、出た後も、奨学金を得たのとそうでないのでは全然違う。

そして私は夢の奨学金3期生なのですが、その3期生同士の仲が良くて。上下関係なくいい関係です。みんな同じ境遇なので、気を遣わなくていい。遠方の奨学生が遊びに来てくれて、みんなで地元観光をしたこともあります。一番の仲良しの子とはいつも連絡し合っています。



柏木千里さん 21歳

寄付者  
一覧

2020年4月～2021年3月にご寄付いただいたみなさまを紹介

[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don\\_act\\_20200615\\_04.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don_act_20200615_04.pdf)



# 災害復興支援



\ Thank you! /

## 事業担当者よりみなさまへ

未知の感染症による混乱からスタートした2020年度。豪雨災害の発生を受け、私たちは初めての複合災害を経験しました。感染リスクを減らすための制約はありつつも、ネットワークを生かして現地のニーズを確認し、お預かりした寄付金を活用して、地元の担い手や専門的なNPO等による被災者に寄り添う活動を支援することが出来ました。



災害対策事業部 災害対策事業チーム(樋口・中村・真野・藤重・外海)



## 事業の説明

### 災害が起こったとき、真っ先に動くための仕組み

日本財団は2014年3月、東日本大地震などにおける災害復興支援活動の経験から、大規模な災害が発生した際に、民間の立場で迅速な緊急支援を実施することを目的とし、「災害復興支援特別基金」を立ち上げました。

東日本大震災の最大の教訓は、災害対策は起きてからでは遅いということです。大災害が起こったとき、真っ先に動くための支援金を蓄えておく仕組みが必要です。

日本財団は、阪神淡路大震災以降50回以上、災害支援に出動して、民間の視点から、支援金を活用してNPOやボランティア団体とともに被災地での支援活動を行ってきました。



## 支援の仕組み

### 支援金とは



救命・復旧活動	使われる
配分	支援団体が使い道を決定
被災地に届くまで	すぐに届く

### 義援金とは



救命・復旧活動	使われない
配分	被災者に公平に配分
被災地に届くまで	時間がかかる

「支援金」とは、被災者の方に直接送られる「義援金」とは違い、被災地でさまざまな支援活動を行う団体が被災者を助けるために活用されるものです。大規模な自然災害が発生した場合、被災地ではインフラの復旧などの行政による活動と同時に、民間の視点による被災者に寄り添ったきめの細かい支援活動も欠かせません。

## 2020年度の活動

### 令和2年7月豪雨

2020年7月3日～7月31日にかけて、西日本から東日本、東北地方の広い範囲での大雨。4日から7日にかけて九州で記録的な大雨で球磨川など大川での氾濫が相次ぎました。

コロナ禍における初の大規模災害であったことから、全国規模でボランティアを募ることもできないなどの復旧が遅々として進まない事態が発生しました。







そこで日本財団では、以下の様々な支援を行ったほか、球磨村からの要請を受けて、重機等ボランティア隊を派遣するなど、これまでの災害対応とは異なる支援活動を展開しました。重機ボランティア隊は、連携のボランティア団体や海上保安学校門司分校、日本財団職員などによる混成チームで、PCR検査の受診を含めた徹底的な感染対策をしたうえで直接派遣を計6回実施。現地駐在職員とともに、道路啓開、家屋の土砂出し及び貴重品救出、歩道の漂着物撤去等の景観再生、基幹産業である森林組合製材所の土砂出し等を行いました。

## 支援内容

1

### NPO・ボランティア活動への支援

- ・NPOボランティア団体への活動支援／1事業あたり上限100万円
- ・専門技術やノウハウを有する団体／1事業あたり上限300万円



全71団体・71事業に  
9,548万円を支援

2

### 教育環境の整備(床上浸水が対象)

- 被災した保育・幼稚園、小中学校、高校・専門学校、特別支援学校、短大・大学等に対する教材等(図書や体育用具、楽器等)の整備



全19団体に  
1,900万円を支援

3

### 被災者の方々への支援

- ・身体の健全を保つための非常用トイレの配備
- ・お亡くなりになった方(災害関連死含む)に対する弔慰金



70名に支給

4

### 福祉団体等への災害支援

- ・日本財団の支援実績のある入所施設等(宿泊を伴うサービス)への事業継続支援
- ・日本財団の支援実績のある被災車両代替整備・被災機器代替整備・被災建築物の復旧整備
- ・入所施設等(宿泊を伴うサービス)への復旧支援(床上浸水を対象)



4施設に支援

## 寄付者からの声

大きな自然災害が発生するたびに心を痛め、被災された方へ何ができるだろうと考えました。レーサーである自分ができることは走る姿をお見せることだけです。しかし、頑張っている結果を残し、それを被災者に寄り添って活動されている方々への活動資金として寄付することはできると思い、レースに参加しています。

今後も、皆さまに元気をお届けできるようなレースをしていきたいと思っています。



毒島誠様(ボートレーサー)

## 支援現場からの声



神瀬保育園(熊本県球磨村) 岩崎ちふみさん

コロナ感染症のために、熊本豪雨災害のことを忘れられてしまっている気がして、寂しいなって思う時もありました。知ってもらって「大変だったね」「なにか自分たちにしてあげられる支援がないか」と思う人がいてくれるだけで、何とか自分たちも頑張ろうと思うんです。

災害後すぐに駆けつけてくれたのが日本財団さんや、OPENJAPANさんでした。そこに電気がついていてだけで安心なんです。あの人たちがいてくれる、あの人たちが頑張ってくれる。だったら自分たちも頑張ろうって立ち上がれるんですよ。きっとだから忘れられたくないの延長線上は、それなのかな、と思います。自分たちが頑張るために、「あの時大変でしたよね」「応援しています」って言われることで、忘れられていない、自分もまだ頑張れるって思えるからですね。そういった意味で忘れられたくない。そして二度と災害で命を落とす人がいないようにしてほしいと思っています。

被災直後から人吉市や球磨村に入られ、車中泊を続けながら毎日活動をしていました。

ゴジラかなんか通ったんじゃないか、災害派遣で行った東北の津波災害のような。土砂崩れが酷く、九州北部豪雨以上の被害状況だと感じました。

住民の方々とだけで片付け作業をしていた際、作業の途中で住民さんが突然しゃがみ込まれたんです。その辺りの石に、泥だらけの姿で座り込んで、うなだれて。そんな姿を見たらたまらん、声もかけられませんでした。今まで一度も見たことがなかった光景でした。

被災した直後からずっとずっと続く片付け。命からがらやっとの思いで助かった人が自分達の片付けで倒れて死んでしまったら、せっかく助かった命が本当にたまりません。



熊本消防元大隊長 渡邊英典さん

寄付者  
一覧

2020年4月～2021年3月にご寄付いただいたみなさまを紹介

[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don\\_act\\_20200615\\_04.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don_act_20200615_04.pdf)



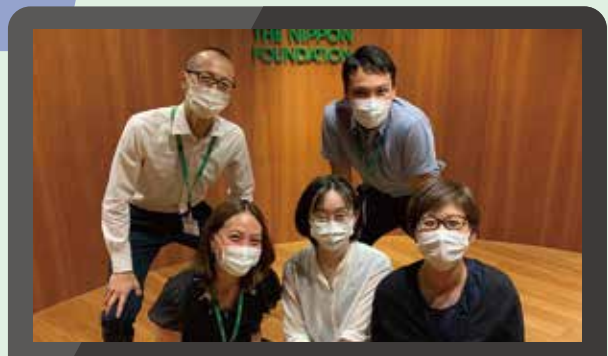
# 新型コロナウイルス緊急支援



## 事業担当者よりみなさまへ

この未曾有のパンデミックを私たちは国難級の災害と位置づけ、10年前の大震災と同様に全組織を上げて対応にあたりました。医療崩壊の阻止。更なる複合災害への備え。そしてより困難な状況にある方々を見逃さない支援。前例のない、長い戦いですが、寄付に託された思いをチカラに、安心な日常を取り戻せるよう引き続き全力を尽くします。

## \ Thank you! /



災害対策事業部 災害対策事業チーム(樋口・中村・真野・藤重・外海)



## 事業の説明

### 未曾有の事態だからこそ、先を見ていち早く動く

2020年1月、中国武漢市を発端にした新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、瞬間に世界的大流行となりました。日本国内でも感染が拡大し、4月には緊急事態宣言が発令。

当初から、病床不足になる事態が指摘されていたことを踏まえ日本財団では、医療機関の代替施設として病床の設置と提供を行うこととしました。4月15日から建設が始まり、設備が整ったうえで東京都へ引き渡し、10月12日より新型コロナウイルス感染症患者（軽症者）の受入れが開始されています。

また、4月7日から新型コロナウイルス対策のための緊急募金を開始し、医療従事者やボランティア、障害者や子どもたちへの支援を実施いたしました。



## 2020年度の活動



### タクシーを活用した移動支援

「感染患者の移送支援」として感染防止設備を備えた患者移送用タクシーを14台(2021年3月末時点)整備し、病院から自宅・ホテルへの移送支援を実施しました。

遮蔽ボードや空気清浄機が設置された専用タクシーの車内

## 新型コロナウイルス感染症と複合災害に備えた救急医療施設への緊急支援プログラム

命の最後の砦である救急医療が機能不全に陥ることのないよう、現下の新型コロナウイルス感染症への対策とともに、甚大な複合災害への備えとして、救急医療を担う127施設へ、医療従事者の防護やケア、院内感染の防止、及び検査・治療体制を強化する機材整備等を目的とした支援を実施しました。



## 訪問看護事業所、ホームホスピスへの感染防護対策支援

新型コロナウイルスの感染拡大により在宅療養を余儀なくされた高齢者にとってニーズが高まっている訪問看護事業所や、特に看取り期の高齢者が利用するホームホスピスにおいて喫緊の課題である感染防護対策を強化するために、スタッフや利用者とその家族等が使用できる感染防護具などの配備を行いました。



## ろう者に対する新型コロナウイルス相談・支援事業



新型コロナウイルス感染症の拡大で、全国的に社会活動が制限されている中で、情報が届きにくいろう者へ、手話による医療・生活・法律に関するオンライン相談や個別ニーズに対する情報提供、ろう児への動画配信による教育支援を行うことで、ろう者の社会からの孤立を防ぐとともに命と健康を守り、安心して暮らせる環境を提供する事業を実施しました。



## 寄付者からの声

新型コロナウイルス感染拡大で大きな被害が出たり、自粛が続いていたり、気が抜けない状況です。何か協力ができないかと、僕らにできること考えたところ、募金は家に居ながらもできることなのでそれがいい形なんじゃないかなということで、募金をすることにしました。

自分ができる範囲のことでも集まると大きな力になります。金額の大小にかかわらず、ほんのちょっとでいいので皆様が動きだしてくれたらと思います。僕らが募金することより、一人でも多くの方が動いてくれた方が大きな力になるかなと思っています。



フィッシャーズ様 (YouTuber)

## 支援現場からの声

訪問看護をしている私たちが感染すると、他の患者さんをリスクにさらすことになります。訪問先のご家族の方も感染には敏感になられていて、看護師が家に来ること自体を不安に感じる方もいらっしゃいました。どこに感染リスクがあるかわ



あすか山訪問看護ステーション 平原優美さん

からない中、ダンボール箱一杯の感染防護具セットが届いた時は、何より安心しました。代用品にしていた雨合羽も品薄状態で手に入らなくなっていて、物品を切らさないために、いつもお店やネットで探し回っていました。感染防護具セットが到着してからは、必要なものは必ず届くという安心が生まれ、私たちもケアの方に集中することができるようになりました。支援をいただけたことで、『安心』できたのは、療養者とそのご家族、訪問看護師だけではありません。近隣の住民のみなさんも含めて、地域全体が『安心』をいただいたのではないかと思います。

コロナがきっかけできこえない人への社会の意識が少しだけ、変わったと感じます。たとえば、マスクがあるときこえない人は困るという話は、コロナ以前はみなさん、わからなかったことですね。それがコロナ禍でニュースに取り上げられるようになり、きこえない人にとって顔の表情や口の形がすごく大切なものなのだと知られるようになった。私たちの働きかけがきっかけになり、全国47都道府県の知事や市長の記者会見にも手話通訳がつくようになりました。手話言語が少しずつですが、世間の『当たり前』に近づいています。この『当たり前』が、コロナが収束した後もずっと継続して欲しいと思います。全日本ろうあ連盟は、きこえない者がきこえない仲間を支援していきたいという考えでじまった団体です。しかし、今日本には障害の当事者団体への政府からの助成やサポートはないんです。障害当事者自身が自立して、自分たちができることはやっていく。その取り組みを日本財団へ寄付いただいたみなさんのおかげで進められるのは、とてもうれしいことです。ありがとうございます。



全日本ろうあ連盟 理事 倉野直紀さん



# LOVE POCKET FUND



## 事業担当者よりみなさまへ

コロナ禍では誰もが平穏な日常を奪われた当事者になりました。最前線で激務に身を賭して命を守ってくださる医療従事者の方々や、貧困等の理由から栄養ある食事や基礎的な感染予防すらままならない子どもたち。そんな、いつもより大変な環境にある誰かを支える活動に、皆様の寄付金を活用させていただきました。

## \ Thank you! /



災害対策事業部 災害対策事業チーム(樋口・中村・真野・藤重・外海)

## 事業の説明



新しい地図の草薨剛さん・香取慎吾さん・稲垣吾郎さん

### LOVE POCKET FUND(新型コロナプロジェクト)

新しい地図の3人と日本財団は協働で「LOVE POCKET FUND」(愛のポケット基金)を立ち上げました。まずは、2020年4月27日から、長期化が見込まれる新型コロナウイルス感染症の拡大に対し「新型コロナプロジェクト」として、寄付受付を開始しました。いただいたご寄付は医療の最前線で活躍している医師、看護師、ボランティアや子どもたちの支援などに活用いたしました。

「for youだけどfor meでもある」  
“あなたのため”が“自分のため”になる、の言葉を胸に、「誰かにやさしくすることで自分も幸せになれる」、そんなファンドを目指していきます。

## 2020年度の活動



### 1. 子どもたちへの食支援

新型コロナウイルスの影響によって臨時休校となるなど、給食など栄養のある食事を十分に摂取する機会がなくなった生活困窮世帯の児童を中心に、全国各地域の子どもの居場所の運営団体(67拠点)が弁当や食材を提供いたします。また、食事の配布・配達時に各種生活支援策の情報提供や、特に配慮が必要な世帯に対して相談等の個別支援を行いました。



## 2. 里親家庭への衛生用品やタブレットの支援

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う里親家庭内での感染予防、里親家庭で陽性患者が出た場合の感染拡大防止、並びに親が新型コロナウイルスで養育が困難となった子どもの受け入れ対応等を目的に、全国の里親家庭に衛生用品(消毒用アルコール、非接触型体温計、防護服等)の支援を行いました。

また、外出の制限が伴う中において、里親家庭の孤立を防ぐべく、オンライン環境の整備により、全国の里親家庭に向けてオンライン研修や面談を実施しました。



## 3. 看護職員派遣支援

地域の医療提供体制を確保するため、クラスター発生時などの緊急措置として看護職員広域派遣を実施する場合、派遣される看護職員(災害支援ナース)に対して「特殊看護派遣手当」を支給しました。2020年度は大阪、北海道へ派遣を行い、また、派遣にあたって必要となる研修を実施しました。



## 4. ドクターカー等 救急医療施設の整備支援

新型コロナウイルスの感染拡大が長期化する中、新型コロナウイルス感染症と複合災害に備えた救急医療施設へドクターカー等の整備支援を行いました。





## 寄付者からの声

自分にできることは、寄付なのかなと思って続けてきました。稲垣吾郎さんにお会いしたこともありますし、絶対に必要な人に届けてくれると思いました。コロナは終わっていない、まだ支援が必要なところがあります。「自分も役に立ちたい」と思っている人はいっぱいいると思います。でもどうしていいかわからない。そんな時に、自分が信頼している人、すごく好きな人が場を作ってくれたら一緒に協力している気持ちになれる。私も、吾郎さんや新しい地図の方々やファンの方たちと一緒に貢献できたようでうれしかったです。



湊かなえ様(作家)〈撮影/天日恵美子〉

## 支援現場からの声



むすびえ 新型コロナウイルス対策緊急プロジェクトリーダー  
三島理恵さん

経済的に困窮している家庭にとって、給食は大切な栄養源でした。しかし、新型コロナウイルスの影響で給食がなくなり、子ども食堂の活動も余儀なく休止となってしまった。少しでも子どもたちの力になればと、フードパントリーや宅食による支援を始めました。

LOVE POCKET FUNDにご協力いただいた皆さんをはじめ、たくさんの人や企業が子どもたちのことを気に掛けてくれている。そのことが日々支援の現場で奮闘する運営団体の方たちにとって大きな励みになっています。各地から届く感謝の声を、今度はいかに支援いただいた皆さんに届けるか、というのも私たちの大切な役割だと痛感しています。

(コロナ治療の現場は)ワンチーム。10名程度の医療従事者が1つになって1人の患者の治療に向き合います。マンパワーが何より大事ですが、一方でもう1つ兵站(後方からの物資の供給)も重要で日本財団からの支援で実現した感染症病床用の医療機器配備についてたいへんありがたいです。



日本医科大学付属病院高度救命救急センター 部長 横堀将司さん

寄付者  
一覧

2020年4月～2021年3月にご寄付いただいたみなさまを紹介

[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don\\_act\\_20200615\\_05.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don_act_20200615_05.pdf)



# スポーツ選手・企業などとコラボレーション



## 事業担当者よりみなさまへ

2020年度もHERO5をご支援くださり、誠にありがとうございました。今後もHERO5では、アスリートを中心とした社会貢献活動を推進し、必要な情報提供やサポートを行ってまいります。引き続き、どうぞよろしくお願いたします。

\ Thank you! /

**HERO5**  
Sportsmanship for  
the future



# HEROs

～ Sportsmanship for the future～



## 事業の説明

HEROsでは、アスリートが社会貢献の先頭に立つことで、スポーツでつながる多くの方の社会課題への関心や行動を生み出し、社会課題の解決の輪を広げることを目的に活動しています。

## 2020年度のトピック



### 1 HEROs AWARD2020

アスリートや団体がスポーツの力を活用して実践する社会貢献活動を表彰することで、支援の輪を広げることを目指して開催しています。今年は、本田圭佑氏(サッカー)、有村智恵氏(ゴルフ)、日本プロ野球選手会、一般社団法人センターポールがHEROs AWARD 2020受賞者に選ばれました。また、受賞者の中で最優秀賞である「HEROs OF THE YEAR」は、本田圭佑氏に決定しました。HEROs AWARDの受賞者の方々の活動支援として、寄付金を活用させていただきます。



### 2 アスリートによる中高生向けオンラインスクール「HEROs LAB」

コロナ禍により、将来へ不安を抱える学生が多くなっています。そこで中高生向けオンラインスクール「HEROs LAB」を実施することになりました。ライブセーバーの飯沼誠司さんをトップバッターに、これまでに、井上康生さんや五郎丸歩さんなどHEROsアンバサダー含め多くのトップアスリートが参加し、コロナ禍において将来に悩みや不安を抱える学生たちにエールを送りました。

寄付者  
一覧

2020年4月～2021年3月にご寄付いただいたみなさまを紹介

[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don\\_act\\_20200615\\_04.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/06/don_act_20200615_04.pdf)





# 企業との コラボレーション



日本財団が目指す「みんながみんなを支える社会」を実現するためには、市民・企業・NPO・国際機関など、世界中のあらゆるネットワークの力が必要です。企業・団体の皆様と連携することで、よりインパクトのあるソーシャルイノベーションの輪を世界中にひろげていくことができます。2020年度にご協力いただいた企業や団体との取り組みの一例を紹介いたします。

## ByteDance株式会社(TikTok)様

様々な困難を抱える子どもに毎日の生活支援や学習支援を行う「子ども第三の居場所」へのコロナ感染症対策として、ByteDance株式会社(TikTok)様からご寄付をいただきました。いただいたご寄付は、コロナの影響により拠点での支援を受けにくくなった子どもたちへタブレット端末の貸与事業に活用いたしました。タブレットを使って拠点のスタッフと連絡を取り合うことで、継続的なコミュニケーションをはかり、心のサポートを行うほか、子どもたちが学習ソフトを使ったり、調べごとができたりする環境を整えました。また、最前線で活動する医療従事者等への支援にも活用させていただきました。



## メットライフ財団・ メットライフ生命保険株式会社様

コロナ禍で高齢者支援のために最前線で働く人々の心と身体の安全を守るため、メットライフ財団から高齢者の新型コロナウイルス対策事業にご寄付をいただきました。いただいたご寄付を、訪問看護事業所やホームホスピスにおいて喫緊の課題である感染防護対策を強化するために、スタッフや利用者とその家族等が使用できる感染防護具などの配備を行いました。



## 企業とのコラボレーション

### LINE株式会社様

LINE GAMEのタイトル内で販売したアイテム等の売り上げのご寄付をいただきました。いただいたご寄付は、子ども第三の居場所での子どもたちが外で遊ぶための遊具として活用させていただきました。



### 株式会社スタイルフォース様

株式会社スタイルフォース様の5つのブランドから販売される#staypositiveTシャツの売り上げの10%を、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う支援へご寄付頂きました。



### 株式会社コーセー様

医療の最前線において、治療と感染予防に尽力されている医療従事者の方々への応援をさせていただくことを目的とし、株式会社コーセーと共同で医療従事者応援プロジェクト「You are my HERO」を実施しました。商品の売り上げの一部をご寄付いただくこととあわせて、化粧品等のセット合計25万セットを寄贈いただき、新型コロナウイルス感染症への対応で奮闘されている全国の医療従事者の皆さまにお送りしました。



## 会計報告（2020/4/1～2021/3/31）

基金名	寄付額(単位:円)	支出額(単位:円)	備考
TOOTH FAIRY	175,343,838	86,292,876	うち換金手数料:3,832,356円
日本財団子どもサポートプロジェクト 子ども第三の居場所基金	153,597,427	49,659,936	うちチャリティー自販機からの入金:72,519,835円
日本財団子どもサポートプロジェクト 難病児支援基金	160,856,598	68,546,363	うちチャリティー自販機からの入金:56,249,085円
日本財団子どもサポートプロジェクト 夢の奨学金基金	85,620,369	27,623,756	うちチャリティー自販機からの入金:38,257,857円
災害復興支援特別基金	2,838,511,343	1,140,387,360	うちチャリティー自販機からの入金:41,819,753円
LOVE POCKET FUND	370,766,545	171,232,107	
遺贈基金	154,412,482	257,721,767	
夢の貯金箱	13,243	6,740	
日本ベンチャー・フィランソロピー基金(JVPF)	26,881,556	50,886	
Shibuya Inclusive TOILET基金	650,000,000	735,400,279	
海と日本プロジェクト推進基金	18,366,035	18,367,539	
社会貢献ポートレース基金	15,000,000	0	業務進行中のため次年度へ継続
キット、願いかなう。基金	10,000,000	0	業務進行中のため次年度へ継続
いはにほん- Experience the Soul of Japan-基金	1,282,892	0	業務進行中のため次年度へ継続
HEROs FUND	70,166,644	22,916,402	うちチャリティー自販機からの入金:23,164,543円 うち夢の貯金箱からの入金:46,180,000円
The Nippon Foundation-GEBCO Alumni Fund	0	53,180,000	
キリン「絆」プロジェクト	0	2,200,000	
合計	4,730,818,972	2,633,586,011	

※日本財団チャリティー自販機からの寄付総額:279,824,221円(2020年度)

### 2020年度もたくさんのあたたかな ご寄付をありがとうございました。

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、緊急事態宣言やマスクや消毒、外出自粛やイベント中止など、これまでの生活が一変しました。このような誰もが大変な状況にあるにもかかわらず、本当にたくさんの方々からの応援・ご協力・ご支援をいただきました。私たちは、寄付者一人一人のあたたかな想いをしっかりと受け止め、皆さまからのキフノチカラをしっかりと届けてまいります。

ご相談やご不明点などございましたら、お気軽にお問い合わせください。  
引き続き、何卒よろしく願いいたします。



ドネーション事業部 ファンドレイジングチーム  
(伊藤・中村・川部・酒井)



## ご寄付・ご支援のお願い



### 日本財団チャリティー自販機

申込・お問い合わせ

インターネット

<https://www.nippon-foundation.or.jp/donation/charity>

お電話

☎0120-892-139 【受付時間】平日9:00~17:00



### TOOTH FAIRY

申込・お問い合わせ

インターネット

<https://www.tooth-fairy.jp/>

お電話

☎0120-24-2471 【受付時間】平日9:00~17:00



### 子ども第三の居場所基金

オンラインで寄付

<https://kifu.www.nippon-foundation.or.jp/pove/>



銀行振込で寄付

【銀行振り込み先】

銀行名：三菱UFJ銀行(0005) / 口座番号：2443187

支店名：きよなみ支店(804) / 口座名(漢字)：公益財団法人日本財団

預金種別：普通 / 口座名(カナ)：ザイニッポンザイダン

【郵便振替をご利用の場合】

口座番号：00130-3-587727 / 口座名義：公益財団法人日本財団



### 難病児支援基金

オンラインで寄付

<https://kifu.www.nippon-foundation.or.jp/inde/>



銀行振込で寄付

【銀行振り込み先】

銀行名：三菱UFJ銀行(0005) / 口座番号：2443188

支店名：きよなみ支店(804) / 口座名(漢字)：公益財団法人日本財団

預金種別：普通 / 口座名(カナ)：ザイニッポンザイダン

【郵便振替をご利用の場合】

口座番号：00150-9-603378 / 口座名義：公益財団法人日本財団



### 夢の奨学金基金

オンラインで寄付

<https://kifu.www.nippon-foundation.or.jp/soca/>



銀行振込で寄付

【銀行振り込み先】

銀行名：三菱UFJ銀行(0005) / 口座番号：2443189

支店名：きよなみ支店(804) / 口座名(漢字)：公益財団法人日本財団

預金種別：普通 / 口座名(カナ)：ザイニッポンザイダン

【郵便振替をご利用の場合】

口座番号：00190-9-514543 / 口座名義：公益財団法人日本財団

## ご寄付・ご支援のお願い



### 災害復興支援特別基金

オンライン・Tポイントで寄付

<https://kifu.www.nippon-foundation.or.jp/dras/>



銀行振込で寄付

【銀行振り込み先】

銀行名：三菱UFJ銀行(0005) / 口座番号：1660782  
支店名：本店 / 口座名(漢字)：公益財団法人日本財団  
預金種別：普通 / 口座名(カナ)：ザイニッポンザイダン

【郵便振替をご利用の場合】

口座番号：00160-0-266041 / 口座名義：公益財団法人日本財団



### 災害復興支援特別基金 <新型コロナウイルス緊急支援>

オンラインで寄付

<https://kifu.www.nippon-foundation.or.jp/corona/>



銀行振込で寄付

【銀行振り込み先】

銀行名：三菱UFJ銀行(0005) / 口座番号：2443179  
支店名：きよなみ支店(804) / 口座名(漢字)：公益財団法人日本財団  
預金種別：普通 / 口座名(カナ)：ザイニッポンザイダン



### LOVE POCKET FUND <新型コロナプロジェクト>

オンライン・銀行振込で寄付

<https://love-pocket-fund.jp/>



### HERO's FUND

オンラインで寄付

<https://kifu.www.nippon-foundation.or.jp/hero/>



銀行振込で寄付

【銀行振り込み先】

銀行名：三菱UFJ銀行(0005) / 口座番号：2443190  
支店名：きよなみ支店(804) / 口座名(漢字)：公益財団法人日本財団  
預金種別：普通 / 口座名(カナ)：ザイニッポンザイダン



### 遺贈寄付

申込・お問い合わせ

インターネット

<https://izo-kifu.jp/>

お電話

☎0120-331-531 【受付時間】平日9:00~17:00



ご寄付、各種活動に関する  
お問い合わせはこちら。

電話

受付時間 | 9:00-17:00(月～金/土日祝日を除く)

 0120-533-236

インターネット

日本財団



[www.nippon-foundation.or.jp](http://www.nippon-foundation.or.jp)



For Social Innovation

公益財団法人 日本財団

〒107-8404 東京都港区赤坂1-2-2

Tel: 03-6229-5111 Fax: 03-6229-5110

E-mail [cc@ps.nippon-foundation.or.jp](mailto:cc@ps.nippon-foundation.or.jp)